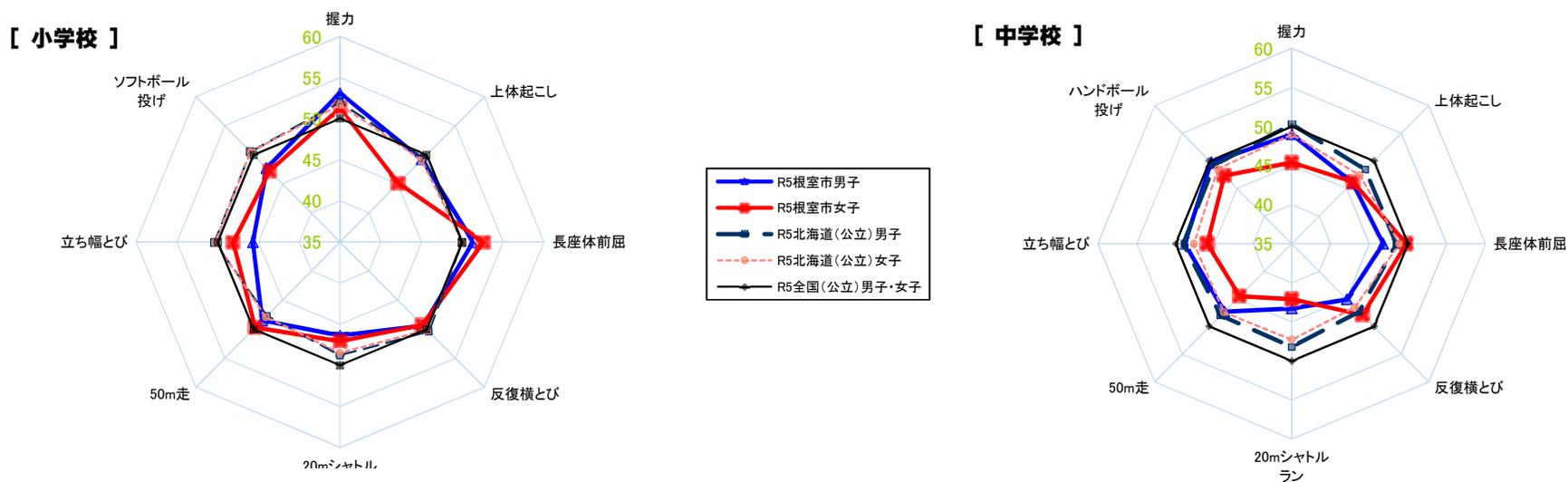


1 調査の概要

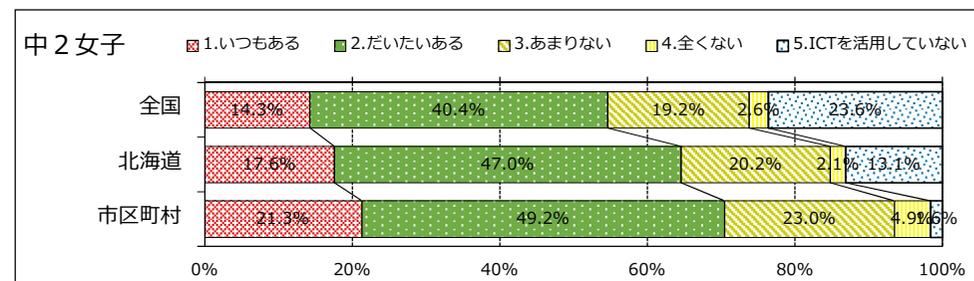
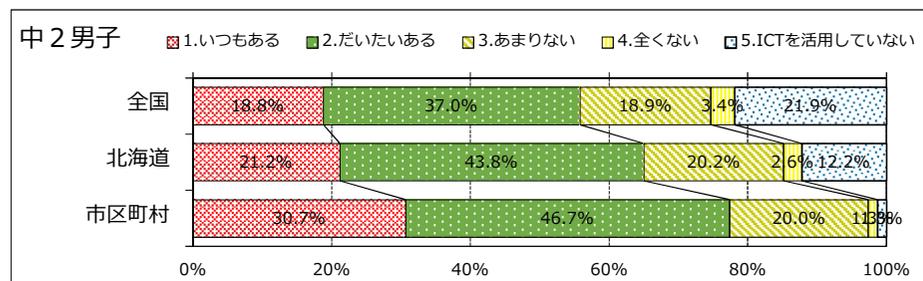
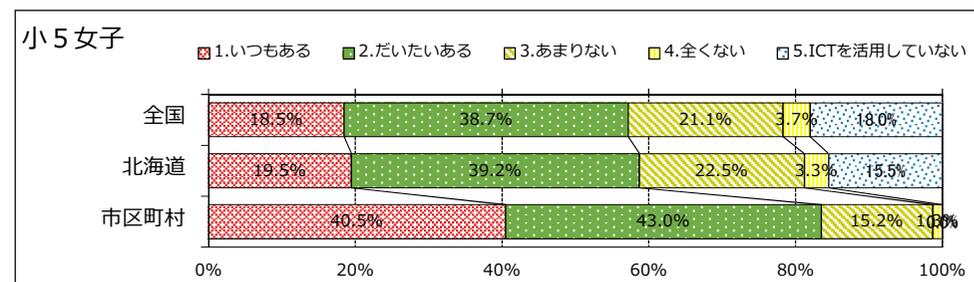
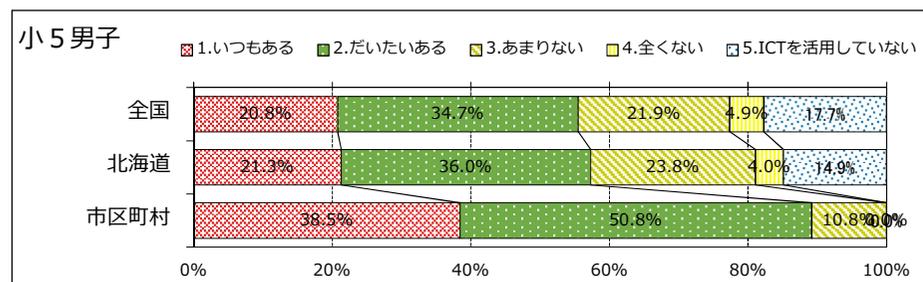
- (1) 目的 児童生徒の体力・運動能力、運動習慣などを把握・分析し、学校における体育・健康などに関する指導などの改善に役立てることを目的とする。
- (2) 実施学年 小学校・義務教育学校第5学年児童、中学校2学年・義務教育学校8学年生徒
- (3) 内容 ①実技に関する調査
握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン（中学生は持久走と選択）、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ（中学校はハンドボール投げ）
- ②質問紙調査
運動習慣、生活習慣等

2 調査の結果

(1) 全国平均を50とした時のレーダーチャート



(2) 児童生徒質問紙調査 体育の授業で、ICTを使って学習することで、「できたり、わかったり」することがありますか。



(3) 全体の傾向

- 小学校は男女ともに握力と長座体前屈で全国平均を上回った。中学校は男子で握力が全国平均を上回った。
- 小学校では、体育の授業で実技の様子を撮影したことにより、ICTを使った学習で「できたり、わかったり」することがいつもあると回答した児童の割合が全国及び全道を上回った。
- 中学校では、保健体育の授業で生徒の動きを撮影し、生徒同士で確認させたことにより、ICTを使った学習で「できたり、わかったり」することがいつもあると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回った

3 今後の取組について

- 1人1台端末を最大限に生かした授業改善の推進するとともに、教員のICT教材の活用能力の向上に向けた研修機会の確保する。
- 年間を通じたスポーツや遊びを通じた体力向上機会の創出していく。
- メディアに触れる時間の長さが課題であることから、学校・家庭・地域で連携した取組を推進していく。